

<p style="text-align: center;">岩手県工業技術研究推進会議 材料技術部会議事録</p>		<p>(実施日)</p> <p style="text-align: center;">平成16年10月26日(火)</p>
<p>(テーマ名)</p> <p style="text-align: center;">フッ化カルシウム汚泥のコンクリート混和剤への利用 (事後評価)</p>		
委員	質問・意見	回答
E委員	フッ化カルシウムは有毒か？	毒性はない。
H委員	フッ化カルシウム汚泥は、半導体工場でも排出されるので、それも使えるのではないか？	ある半導体工場で排出されたフッ化カルシウム汚泥についても検討したが、Fが10%と低品位であった。また凝集剤が含まれているため、コンクリートが凝集するという欠点があって使えなかった。
A委員	本研究は地域コンソーシアム事業より前に、平成12年にRSP事業で取り組んでいる。実際、長い経緯があったことをプレゼンすべきではないか？ こうした研究は2～3年でものになるものではなく、工技センターはよく取り組んできたと評価している。	最初に相談があったのは平成9年である。実際は5～6年実施して得られた成果である。
B委員	成果の中で1万t活用できるとあるが、実際使えるのか？	1万tは3年前の数値で現在は1000tであり、県内全てのコンクリート製品製造業で活用できる量である。
G委員	特許の内容は？	フッ化カルシウム汚泥をコンクリート混和剤として使用するという内容である。
	利用促進にあたっては、地方振興局等への働きかけが必要ではないか？	流通するには、実績を積む必要がある。土木サイドは安価でなければ使ってくれないという事情もある。
D委員	営業活動の内容は？また全国展開は可能か？	S社と当所で、県土整備部においてプレゼンした。また共同研究機関3者(S社、C社、工技センター)で役所をまわった。肥料工場は新潟や九州などにあり、全国展開は可能と思われる。